

DXに取り組む
「第一歩」を応援して
います

みんなの想いを実現する あったかいDX

県内で取り組まれているDX事例紹介

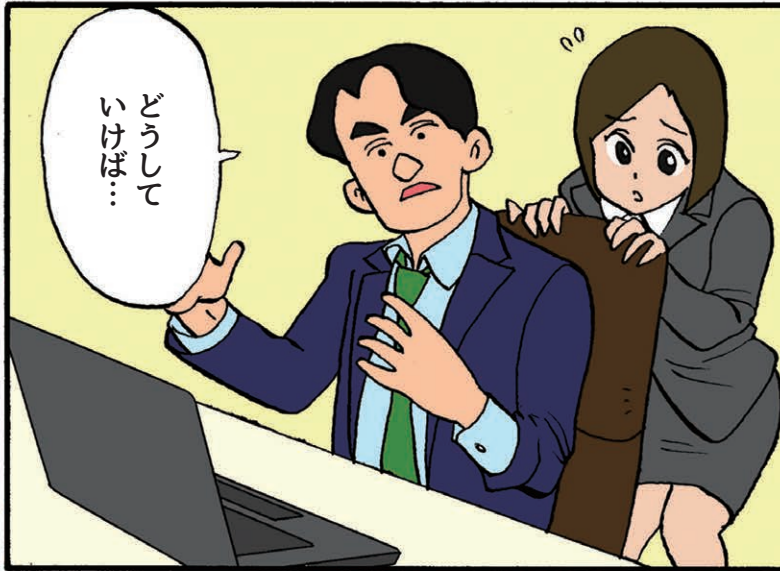


みえDXセンター

業務の進捗状況などを「見える化」したい ~みえDXセンターに寄せられた相談事例から~



そして紹介された
「みえDXアドバイザー」
を交えてオンラインで…



いきなり取り組む
のではなく
まずは何を
したいか目的を
明確にしましょう。
その上で
進めていく
ための計画を
作りましょう。

みえDXアドバイザー

作業状況を「見える化」
するために施工管理
システムを導入します。



タブレット端末
に従って入力し
ていくだけだか
ら、まずはやって
みましょう
いつも使っている
スマホと
同じ要領
だから

なんでこれまでのやり方を変えなきゃいけないんだ?

覚えたり
職人への
説明が大変
ですねぇ



ミスしたら
特定されて
責められる
んじゃない?

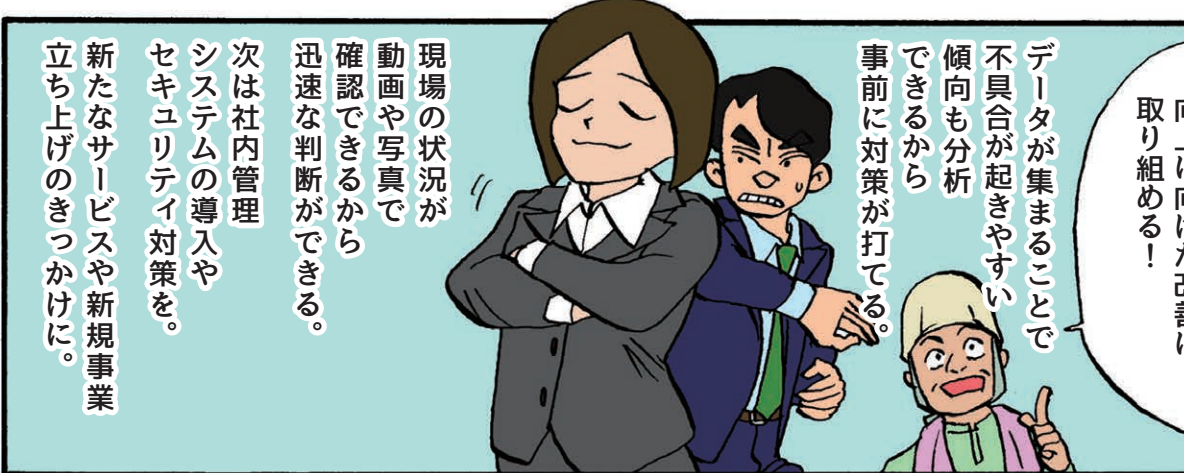
しかし、いざやってみると



何度も電話
しなくても
いいし、ボタン
ひとつで

電話で
何回も
説明
しなくて
済むし

何度も電話する手間が
省けた分、現場の品質
向上に向けた改善に
取り組める!



現場の状況が
動画や写真で
確認できるから
迅速な判断ができる。
次は社内管理
システムの導入や
セキュリティ対策を。
新たなサービスや新規事業
立ち上げのきっかけに。

施工管理システムの活用などICTリテラシー向上に役立つアドバイスをいただきました。これまで、業務状況を随時電話で確認しておりましたが、デジタル化により業務効率の向上効果が出ています。社内に詳しい人がいなかったので「みえDXセンター」に相談して大変助かりました。



次ページからは県内で取り組まれているDXの取組事例をご紹介します。

暮らしの
DX

毎日の生活が豊かになる

県民一人ひとりが健康で心豊かな生活を実現
できる暮らしの実現

「手書き」の書類をデジタル化(清泉愛育園)

2020年からデジタルツールを取り入れた清泉愛育園。パソコンが苦手だった園長が「まずはやってみよう」と勇気を出して一歩踏み出した結果、保護者の負担が軽減し、便利さと安心感を提供できるようになっただけでなく、業務の省力化が図られ、職員一人ひとりの業務改善意識の向上にもつながりました。

朝の忙しい時間も家事に集中できる
親も保育士も、「子どもと過ごせる時間」が増加

社会福祉法人 清泉福祉会 清泉愛育園 園長 安藤 智子さん

■ DXに取り組んだきっかけ

数年前、福祉サービス第三者評価(第三者の評価機関が保育園のサービス内容や質を評価する仕組み)を受けた際に、「施設でICT化をしているか」という設問があり、「できたらいいな」と考えていたのですが、パソコンは得意ではなく、年齢のこともあって「できない」と思っていました。その後、たまたま紹介された保育・教育施設向けの業務支援ツールの説明を聞くうちに、ぼんやりと業務の省力化のイメージができたので、「ちょっと試してみようかな」と軽い気持ちで始めたのがきっかけです。

① 「しなさい」ではなく、「まかせろ」

職員も「似たような書類に何度も手書きする業務を減らしたい」と思っていたようで、デジタルツールを導入することに、あまり反発はありませんでした。デジタルツールに不慣れな職員もいたのですが、「しなさい」ではなく、「できたらいいよね」といったポジティブなメッセージで伝え、私は口だしをしないで、大部分を職員にまかせました。操作に不慣れな職員を他の職員がサポートすることで、自然とコミュニケーションも増えました。今では一人一台タブレットを持ち、ほとんどの書類が手書きから入力になったことで時間に余裕が生まれたので、保育士本来の仕事、「子どもと向き合う時間」に向けられています。



② 負担が減ったと、喜びの声をいただいています。

手書きの連絡帳をデジタル化したことで、朝の忙しい時間帯の負担が減り、「子どもと過ごせる時間が増えた」と喜びの声をいただいています。欠席や遅刻などのやり取りにもデジタルツールを使っています。時間帯を問わず、気兼ねなくご連絡いただけるので、とても手間が省けていると思います。時間に余裕ができたことで、お互いにコミュニケーションを取ることも増え、保護者と園とのつながりもどんどん強くなっていると感じています。

③ ここで働きたいという方が増えています。

見学に来られた保護者は「手書きしなくてもいいのですか!？」と驚かれます。また、職員同士がタブレットを活用しながらコミュニケーションを取る姿を見て、「ここで働きたい!」と、たくさんの保育士が応募してくれます。職員の意識も徐々に変わってきており、コストを意識するようになり、自分の働き方についても考えたりするようになってきました。これまでは、週案や月案(毎週・毎月の指導計画)の作成で残業をする職員が多かったのですが、今ではほとんどいなくなりました。



DXの取組によるメリット

《保護者側》

- 24時間、気兼ねなく園へ連絡ができる安心感
- 「手書き」の連絡帳がなくなることで、朝の忙しい時間に余裕ができ、子どもとの時間が増える
- 緊急連絡など、タイムリーに受け取れる

《園側》

- 職員同士のスムーズな情報共有
- 「手書き」の書類が減ることで、空いた時間を子どもとの時間に向けられる。
- 仕事に対する職員の意識も変わり、改善意識が向上する

これからDXの取組をされる方へのメッセージ

パソコンでメールも送れなかった私が、今ではデジタルツールを使って保護者へのアンケートを作ったりしています。デジタルに興味があっても自分ができるか不安の方も多いと思いますが、まずは勇気をもってやってみることでいいと思います。まず一歩を踏み出してみてください。



PROFILE

社会福祉法人 清泉福祉会
清泉愛育園【所在地】 津市新町1-8-13
【業 種】 保育園

しごとの
DX

仕事がしやすくなる

新事業の創出や生産性・安全性等の向上
による持続可能な産業の実現

作業日報のデジタル化からはじめる工場のDX (三幸電機株式会社)

2017年から設備の稼働状況や生産状況をデータ化し、製品の動きや流れをデジタル化することで工場の「見える化」に取り組んでいます。「現場ファースト」のデジタル化によって得られる「データ」を分析することで、大幅な生産性の向上を実現しています。

“やってみなはれ・DX”

生産性の向上だけでなく、採用希望者も増加

三幸電機株式会社 常務取締役 中村 厚郎さん

■ DXに取り組んだきっかけ

「収益性の高い工場を構築する」という企業方針を掲げたことから、工場の「改善活動」に取り組むことになりました。改善するためには「生きた情報」の収集、つまり生産現場のデータをリアルタイムで集計する仕組みが必要と考え、その手段としてデジタルツールの導入を進めました。

① 作業日報は改善のためのネタが詰まった「重要な帳票」

作業日報は単なる生産の記録ではなく、改善のためのネタが詰まった「重要な帳票」といえます。しかし、生産現場の管理監督者は日常の業務に追われ、作業日報を集計できていないのが現状です。

そこで、まずは一番身近な作業日報をデジタル化することで、誰が、いつ、どの設備で、どの品番を、いくつ、何時から何時まで生産したかを「データ」としてリアルタイムで集計することから始めました。



② 難しいシステムを導入する必要はない

難しいシステムを導入するのではなく、普段使っているエクセルやバーコードを組み合わせたもので、現状を大きく変えることなく作業日報のペーパーレス化を進めることができます。

一度にあれもこれも導入するのではなく、身近にある小さなことから実績を積んでいくことを心がけています。

DXを進めていくとこれまでの「企業の文化」を少しずつ変えることとなります。まずは「現場の中心人物」に導入の目的や使いやすさを事前に説明し、理解してもらうことから進めました。

③ まるで未来の工場みたい

身近なことから少しずつデジタル化を進め、今ではビジュアル面にも遊び心を加えた20ほどのシステムが常時稼働し、改善活動を継続しています。

一人一台タブレットを持ち、モニターも見ながらの作業は若い世代にとって魅力的に映るようで、「まるで未来の工場のような」と採用希望者が増えています。

タブレットは監視するのではなく、作業の補助をするのが目的です。まるで2人で作業をしているかのような安心感があります。

DXの取組によるメリット

《従業員側》

- システムがサポートしてくれることで、安心感をもって作業ができる



《会社側》

- 従業員の改善意識が高まることでコスト意識が身につく
- 生産性の向上だけでなく、従業員満足度が高まることで、採用希望者の増加や退職者の減少につながる

これからDXの取組をされる方へのメッセージ

「やってみなはれ・DX」、経営者のこの一言で、これまでなかなか進まなかった製造現場の改善が大きく進みます。企業文化が変わり、改善活動の集団となって企業価値が高まっていきます。大きなシステムをいきなり導入するのではなく、まずは手ごろなところから始めてみてはどうでしょうか。



PROFILE

三幸電機株式会社

【所在地】三重工場：いなべ市北勢町京ヶ野新田568-5

【業種】電気機械器具製造業

しごとの
DX

仕事しやすくなる

新事業の創出や生産性・安全性等の向上
による持続可能な産業の実現

無料のデジタルツールで簡単に農地を「見える化」 (株式会社つじ農園)

農家の高齢化と離農によって、なじみのない農地を預かることも増えました。生産規模が拡大していくなかで、デジタルツールを使って農地の管理業務や農業経営の効率化を進めています。

作業場所とその日にする作業を「見える化」して共有 農地の管理業務を効率化し、より良い作物づくりに注力

株式会社つじ農園 代表取締役 辻 武史さん

■ DXに取り組んだきっかけ

就農した2016年頃は、農地の管理がまだまだおおざっぱな状況でした。前職の製造業で得たノウハウを農業に生かしていこうと思い、農業も基本的には製造業なので、品質管理などの継続的な業務改善の方法であるPDCAのサイクルは一緒という観点から、デジタルツールの導入を進めています。



① どこに何が植えられているかを把握することが大切

7品種の米を栽培していて、有機栽培も行っているのですが、肥料や農薬を間違えないように、どこに何が植えられているかを把握しておくことがとても大切です。

デジタル化開始当初は無料の地図表示ソフトを使って農地の「見える化」を進めました。区画された農地に「1」、「2」…のように番号を付けて色分けし、何が植えられているのか、どこまで作業が進んでいるのかが分かるようにしています。

このデータをチャットツールで作業者に送れば、わざわざ会って作業指示をする必要はありません。作業終了後は日報に作業記録を入力することで、データとして情報が溜まっていきます。



② DXのいいところ

農地を「見える化」すれば、例えば、津市以外など遠方で土地を預かったとしても、津市にいながら田んぼの状況が分かります。

どのように事業を拡大していくか想像がふくらみますし、考え方も柔軟になることがDXの良いところだと思います。

当社ではドローンを使った農地の生育解析なども行っており、農業のDXを広く発信することで、若い世代の方に「こんな農家ならやってみたい」と思ってもらえると嬉しいです。

③ 農業にふれていただく接点に

自分の食べるものがどのようにできているのか知りたいという、若い世代が増えていますが、都会の方などは農家との接点がありません。繁忙期には人手が必要になるため、副業(アルバイト感覚)でこのような方に来ていただき、農業に触れていただく接点になれると良いと思っています。そんな時にも、農地が「見える化」されていれば、どこでどんな作業をするのか事前に、簡単に共有することが出来ます。

DXの取組によるメリット

《従業員側》

- 口頭での指示ではなく文字データで何をすべきか確認できるので、作業ミスが起こりにくい
- 初めて作業に行く場所でも迷わない

《会社側》

- 管理業務を効率化することで、より良い作物づくりに注力できる
- 人材の受け入れ体制を構築することで、地域の農業活性化につながる

これからDXの取組をされる方へのメッセージ

何のためにDXに取り組むのかという「目的」を明確にすれば、数多くある無料のデジタルツールを使うだけでも、さまざまなDXを実現できると思います。目的に合わせて、簡単にできることから取り組んでみてはどうでしょうか。



PROFILE

株式会社つじ農園

【所在地】津市大里睦合町1211

【業 種】農業

行政サービスが利用しやすくなる
県民の皆さんの利便性の向上や多様な利用者の
目線に立った行政サービスの実現

県立高等学校入学願書のデジタル化 (三重県教育委員会事務局)

令和5年度三重県立高等学校入学者選抜から、これまで、紙で行っていた出願を「Web出願システム」に変更。パソコンやスマホから24時間手続きが可能になり、志願者にとって便利になっただけでなく、中学校・高等学校側の入試業務の効率化にもつながりました。

全国で2例目となる「先進的な取組」 入力漏れの確認や修正を簡単に行える

三重県教育委員会事務局 高校教育課キャリア教育班 指導主事 水谷 紀子さん

■ DXに取り組んだきっかけ

以前より、学校側から「出願をデジタル化してほしい」という要望がありましたが、セキュリティ等の課題もあり、なかなか進められていない状況でした。「三重県電子申請・届出システム」が新システムに移行するタイミングで、デジタル社会推進局から入学者選抜で活用できるのではないかと提案があり、セキュリティもしっかりしていることから取組を進めることにしました。

① 紙での出願をデジタル化することで、生徒も学校も負担が減りました。

県立高校の学科名は高校によって異なっていて、入学願書を書き間違えると初めから書き直しとなってしまいます。中学校は入学願書の書き方の指導にとっても苦労していましたし、高校は中学校から提出される情報を手入力でパソコンに打ち込んでおり、作業が長時間かかることもありました。

デジタル化することで、パソコンやスマートフォンから手続きが可能となり、出願者は入力漏れの確認や修正が簡単にできますし、高校側も一からデータを入力する手間が省け、双方の負担を大きく減らすことができます。



② いざ始めてみると想定していないことも

システムの開始にあたっては、志願者、中学校、高校向けのマニュアルを作成し、高校職員向けの説明会を行いました。その際は「業務の効率化につながる」など前向きな声を多数いただきました。ところが、市町ごとにネット環境の制限が違っていたため、各学校に配備されている一人一台パソコンからシステムにアクセスできないところがあったり、スマートフォンの機種によっては使えない場合があるなど、いざ始めてみると想定していないことも出てきました。現場の要望も聞きながら、より使いやすいものに改善していきたいと思います。

③ 先がけとなるモデルに。

県立高校の「Web出願システム」は、都道府県の取組としては全国で2例目となります。

三重県と同じ「電子申請・届出システム」を運用している都道府県にとって先がけとなるモデルとして、無事にスタートできたことは入試におけるDXの第一歩になったと思います。

まだ電子納付に対応できていませんので、この点についても取り組んでいきたいと思っています。



DXの取組によるメリット

《出願者側》

- 手書きによる書類作成の手間が減る
- 入力漏れの確認や修正を簡単に行える

《学校側》

- 願書等のデータ入力・管理業務の負担を大幅に軽減
- 空いた時間を別の業務に充てられる

これからDXの取組をされる方へのメッセージ

新しいシステムを導入する際には、準備期間だけでなく、試験期間も十分に取っておくことが大切です。その期間で浮き彫りになる課題を修正しながら本格的なスタートを迎えることが出来れば、スムーズにDXを進められると思います。



PROFILE

三重県教育委員会
事務局

【所在地】津市広明町13番地
【業 種】公社・官庁



みえDXセンター

相談受付・課題解決に取り組んでいます！

▼ DXでなにができるか、考えてみませんか ▼

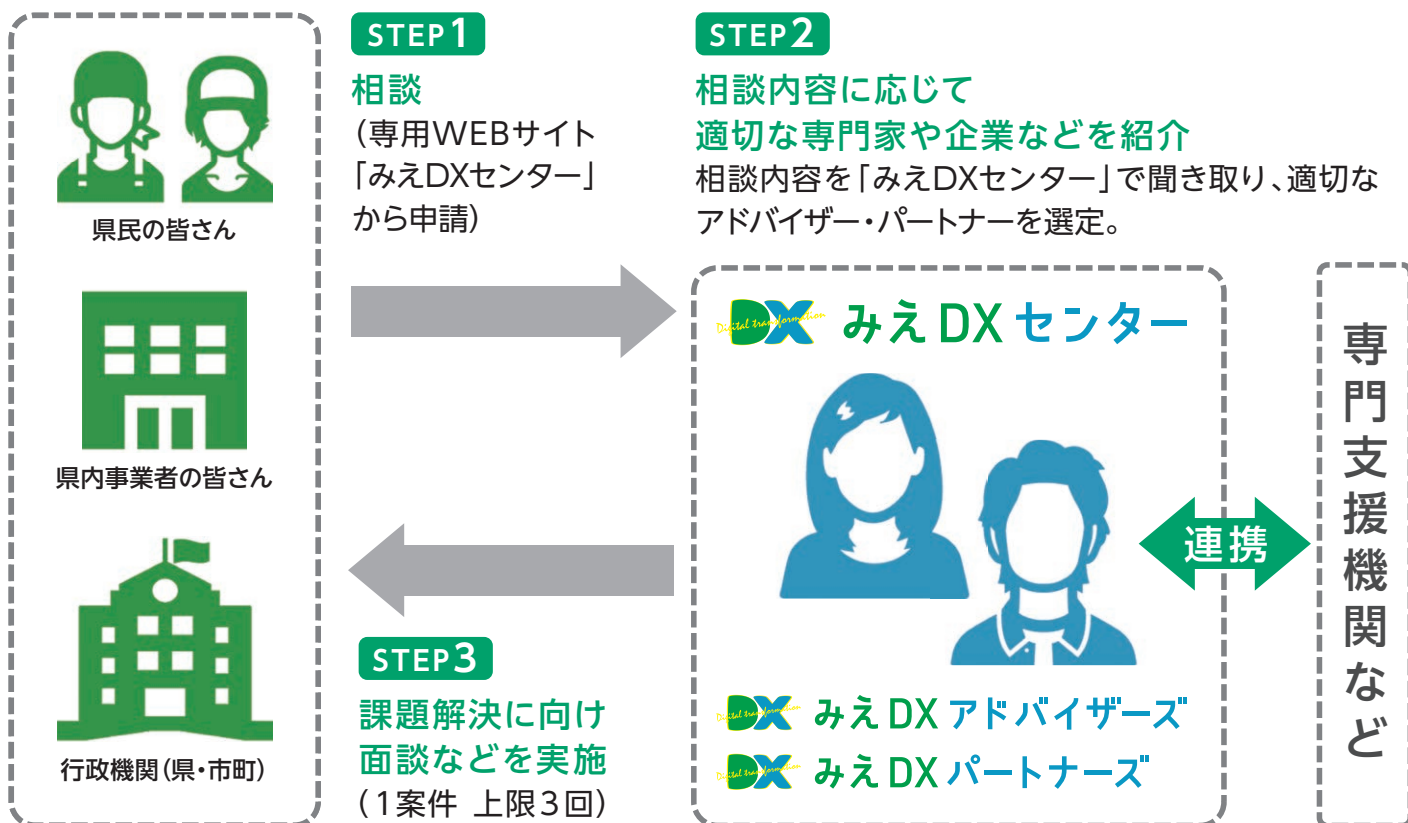
DXってなに？
どうして必要なの？

DXって
何から始めれば
いいんだろう…

課題を改善
したいけど、DXで
なにができる？

みえDXセンターでは、県民の皆さんや県内事業者、行政機関(市町・県)からのご相談に対し、県内外のDXを牽引する専門家(みえDXアドバイザーズ)や企業(みえDXパートナーズ)、専門支援機関と連携して課題解決に向けて支援いたします!!

DXに関するお悩みをお持ちの方は、お気軽にご相談ください!!



DXに関する困りごとがありましたら、みえDXセンターを積極的にご活用ください。
相談は予約制で、専用WEBサイトから随時受け付けています。

三重県デジタル社会推進局デジタル戦略企画課

E-Mail: dxcenter@pref.mie.lg.jp TEL: 059-224-3086

みえDXセンター

